

# 日本語の「ちょっと」の意味・用法に関する一考察

## A Study on the Meaning and Usage of "Chotto" in Japanese

辻 周吾\*

Shugo Tsuji

本研究では、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」の例文をもとに、外国人日本語学習者の習得の視点から、日本語の「ちょっと」の意味・用法を分類した。その結果、7つの意味・用法を確認することができた。日本語の「ちょっと」は、実際のコミュニケーションの場面では、対事的ムード、対人的ムードの表現とともに使われることで、多様な意味・用法を表している。これらのことを、外国人日本語学習者に指導することで、その習得が期待できるものと言える。

キーワード：日本語、ちょっと、ムード、外国人日本語学習者、コーパス

### はじめに

日本語の「ちょっと」は、「戸をちょっと開ける」のように、副詞として、分量・程度が少ないことを表す。しかし、実際のコミュニケーションの場面では、「ちょっと調べてみます」のように、軽い気持ちでことを行うことを表したり、「ちょっと、忘れ物よ」のように、気軽な呼びかけの言葉を表したりする<sup>1)</sup>。

このように、日本語の「ちょっと」は、多義的な意味を持っており、コミュニケーションにおける潤滑油としての役割を果たしている。しかし、日本語母語話者は、普段自然に使っていることもあり、「ちょっと」にどのような意味があるのかまで気づいていないものと思われる。また、外国人日本語学習者にとっては、そもそも知らない可能性がある。コミュニケーションの場面で、「ちょっと」がどのように使われているかは、興味深いところである。

### 1. 先行研究

実際に、日本語の「ちょっと」のコミュニケーション場面における機能については、いくつかの先行研究により、その分類が行われている。

中道(1991)は、「命題内的意味を含んではいても、それが次第に希薄になるもの」として、以下の内容を説明している。

---

\*流通科学大学商学部、〒651-2188 神戸市西区学園西町 3-1

## ①程度が高いことを表す用法

例) これでも昔はちょっと知られたプレイボーイだったんだぞ。

## ②呼び掛け等として用いる用法

例) 「君、ちょっと」「はい、何でしょう」

## ③伝達態度をあいまいにする用法

例) 今日はちょっと寄るところがあるので、ここで失礼します。

## ④間つなぎの用法

例) これはまあ、ちょっと、なんというか、むずかしい問題でして、お答えもしにくいわけなんですよ。

同研究について、上記の分類と、数量や程度が少しの意味を表す「命題内容に情報を添加する用法」とを分けて捉えているところが特徴的である。また、これ以降の研究でも、このような捉え方がみられる。

日本語の「ちょっと」の研究については、彭（2004）が有名である。同研究では、「ちょっと」に関する機能を、7つの下位分類から説明している。「場面的添加」の意味として、本来の「少し」の意味と分けている。以下のような内容である。

## ①話者の適応力：話者自身の身についた能力、都合、可能性などを指す。

例) 私は中国語をちょっと話せますが、……。

## ②話者の行為：話者自身の行為に限られる。

例) ちょっと「失礼して」お先に。

## ③話者の判断：動作主は「話者自身」、「話者の下した判断内容（断定・推量）」が述語になることを指す。

例) ちょっと考えられない。（暗示的強調。「とても」の意）

## ④話者の評価：「話者」がある物事に対して下した評価のことを指す。

例) あの人ちょっと

## ⑤勧誘：「話者」が相手にすすめ誘うことを指す。

例) ちょっと一杯、いかがですか

## ⑥依頼希求：「話者」が相手にお願いすることを指す。

例) すみませんが、ちょっと消しゴムを貸してくれませんか。

## ⑦注意喚起：「話者」が相手に注意を喚起することを指す。

例) ちょっと気をつけて

同研究について、「相手に働きかけない」か「相手に働きかける」かの視点から分類しているのが特徴的である。日本語学習者にとって、どのような場面において「ちょっと」を使用すれば適当かが示されている。これに続く彭（2006）も含め、彭氏の研究は、「ちょっと」の研究テーマを発展させた点で、高く評価ができる。

これら以外にも、岡本・斎藤（2004）が、日本語の「ちょっと」のコミュニケーション機能を6つに分類している<sup>2)</sup>。また、牧原（2005）が、談話における「ちょっと」の機能について、通常の程度副詞としての用法も含め、4つに分類している<sup>3)</sup>。

以上のように、先行研究における、日本語の「ちょっと」の機能についてみてきたが、各研究で分類の仕方が異なっている。そして、「副詞の少ないという意味と、コミュニケーションにおける意味とを分けて考えている」、「話し手の認識によるものと、聞き手に働きかけるものとを分けて考えている」などのような特徴がみられる。本研究でも、「ちょっと」の意味・用法を分類していく上で、これらの点を参考にしたい。そして、本研究では、これまでの先行研究と異なり、日本語学習者の習得の視点から、「ちょっと」の意味・用法を分類する。また、このことが、本研究の特徴であるとも言える。

## 2. 研究目的、研究意義

本研究のリサーチクエスションは、「日本語の『ちょっと』には、どのような意味・用法があるのか」というものである。また、本研究の目的は、「日本語学習者の習得の視点から、日本語の『ちょっと』の意味・用法の分類を行うことである。そして、日本語学習者の『ちょっと』の習得に役立てること」である。

「ちょっと」にかかわる先行研究は少なくないものの、意味・用法において、未だに解明されていない部分があると考えられる。これを解明することは、当該研究分野の発展に寄与するものと言え、広くは日本語学の研究においても意義があるだろう。さらに、本研究で明らかとなった「ちょっと」の意味・用法を、日本語学習者に示すことで、その習得にも役立つ。こうした日本語教育における実践についても、意義があるものと言える。

## 3. 研究方法

本研究では、日本語の「ちょっと」の意味・用法の分類を行う。また、そのために、「現代日本語書き言葉均衡コーパス 中納言版」からの例文を用いることとする。同コーパスにおいて、長文検索で「ちょっと」という言葉を検索した。その際に、「文学（新）」、「1990年代、2000年代」という条件設定を行った。またそこから、さらに小説における会話文に絞ることとした。ここで会話文としたのは、よりコミュニケーションの場面に即した表現を抽出するためである。外国人著書による海外作品も除いている。また、本研究では、日本語の「ちょっと」の意味・用法の分類

を優先させていることから、「ちょっと」の省略形、「ちょっとない」・「ちょっとばかり」などの特殊な形は、今回は含めないこととした。このような状況で選定をした結果、計 387 例の「ちょっと」をともなう表現を確認することができた。

続いて、これらの例文に対して、KJ 法による意味・用法の分類を行った。その際に、主に、日本語学習者の習得の視点から、日本語教育文法におけるムードの表現による分類を試みた。ムードについては、高見（2019）が、『きっと～だろう』『どうも～らしい』『～つもりだ』などの表現のように、推測や意思といった話者の心的態度や気持ちを表す文法形式」（p.136）と述べている。なお、本文中のムードの表現については、原沢（2010）の分類を参考にしている<sup>4)</sup>。

たとえば、「ちょっと見てください」、「ちょっと作成してください」などの例文は、いずれも「～てください」という依頼のムードの表現が付いている。こうしたことから、これらをまとめて、「聞き手への依頼をやわらげて伝える」と称することが可能である。KJ 法で言えば、ここでの「ちょっと見てください」などの例文はラベルであり、これらのラベルをまとめた『聞き手への依頼をやわらげて伝える』が表札にあたる。これは、ラベルを集めた小グループとも言える。

また、表札は、本論文における「ちょっと」の「意味・用法」を表している。「ちょっと」が、そのムードの表現と結び付いて使われる場合に、どのような働きかけをするかである。上記の場合、「ちょっと」をともなうことで、聞き手への依頼をやわらげる働きをしている。

一方で、「ちょっと聞きなさい」、「ちょっと確認しなさい」など、「～なさい」という命令のムードの表現が付いたものがあり、これらのラベルをまとめて『聞き手への命令をやわらげて伝える』という表札を付けたとする。この意味・用法は、先の『聞き手への依頼をやわらげて伝える』と機能が類似しているので、さらにこれらをまとめて【聞き手への依頼や命令をやわらげて伝える】という表札を付けることが可能である。

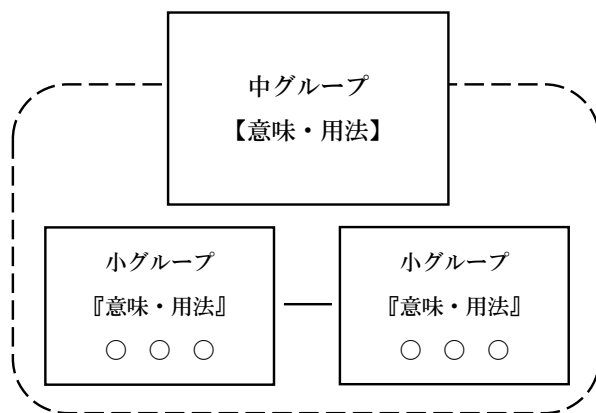


図 1. 本研究における KJ 法の特徴

注：破線で囲った部分は中グループを表している。

この場合、『聞き手への依頼をやわらげて伝える』と『聞き手への命令をやわらげて伝える』は、下位分類となる。中グループを構成する小グループとも言える。本論文では、小グループを『』で、中グループを【 】で記す。図1に、本研究におけるKJ法の特徴を示すこととする。

また、このようなムードの表現を参考にしつつ、前後文脈の語数500字からも、「ちょっと」がどのように使われているかを確認した。

#### 4. 「ちょっと」の意味・用法

以下、KJ法で分類した「ちょっと」の意味・用法を紹介していく。「話し手の認識によるもの」から「相手に働きかけるもの」の順となっている。具体的には、コトの内容を話し手がどう捉えるのかを表す「対事的ムード」から、コトの内容をどう聞き手に働きかけるのかを表す「対人的ムード」の順に説明を行う。なお、紙幅の関係から、本文中の例文を一文程度で示すこととする。例文の後ろの（ ）は、「書名・出典」である。

##### 4. 1. 話し手の判断を遠慮しながら伝える

99例から、同意味・用法が確認できた。分類にあたって、話し手の認識を伝える「断定のムード」を参考にすることとした。つまり、動詞や形容詞述語によって文が言い切られる形である。「海外で働けるのが嬉しいの」のように、表面的には何も見えない「0（ゼロ）」の形式が付いているとされる。以下、例文をもとに、形容詞文のものからみていく。

- ①私の名前、覚えててくれたんですか？ちょっと嬉しいですね（はなひな）
- ②こういう洒落た歌を詠む女って、ちょっとイイよな（私は美人）
- ③読んでみなよ。この詩。ちょっとすごいよ（私立探偵濱マイクシナリオ）

それぞれ、①「ちょっと嬉しい」、②「ちょっとイイ」、③「ちょっとすごい」のように、「ちょっと」が肯定的な意味を持つ形容詞の前に付いている。「ちょっと」をとまなうことで、直接的な感情の表出や評価によって、相手に大袈裟に受け取られないようにしている。ここでは、話し手の照れ隠しや遠慮といった態度がうかがえる。こうしたことから、『肯定的な態度を遠慮しながら伝える』用法であると言える。

- ④ちょっと苦かった。でも、おいしかったよ。（塾講師）
- ⑤ちょっと馴れ馴れしくてお調子者ではあるけど（赤ちゃんをさがせ）
- ⑥いくらなんでも、ちょっと酷いぞ（紅の悲劇）

先のとは逆に、上記の例文では、④「ちょっと苦い」、⑤「ちょっと馴れ馴れしい」、⑥「ちょっと酷い」のように、否定的な意味を持つ形容詞の前に付いている。「ちょっと」をともなうことで、直截的な感想などによって、相手の気持ちが離れないようにしている。ここでは、話し手の、相手を傷つけない、さらには相手との関係を悪くしたくないといった態度がうかがえる。『否定的な態度を遠慮しながら伝える』用法であると言える。

⑦そう。いま、ちょっと困っている。(風転)

⑧ちょっと勘違いしてました(恋霊館事件)

⑨ちょっと気になりまして(マーブル騒動記)

上記の例文では、⑦「ちょっと困る」、⑧「ちょっと勘違いする」、⑨「ちょっと気になる」のように、動詞述語の前に付いている。「ちょっと」をともなうことで、唐突的な意見などによって、相手にその状態が重大なこと、深刻なこととして受け取られないようにしている。ここでは、聞き手に対し、そのネガティブな状態について追及してほしくないという態度がうかがえる。『状態を遠慮しながら伝える』用法であると言える。

以上のように、同意味・用法についてみてきた。「ちょっと嬉しいです」、「ちょっとおかしいです」、「ちょっと困っています」のように、「ちょっと」を付けることにより、話し手の判断を遠慮しながら伝えている。こうしたことから、総じて、【話し手の判断を遠慮しながら伝える】用法であると言える。

しかし、これはあくまでも表面的なものであり、実際のところ、「ちょっと」が高い程度を表す場合もある。たとえば、先の⑥の例文について、前後の文脈をみていくと、むしろ高い程度を表していることがわかる。

「政治家なんですよ。だったら悪いひとじゃないの？汚職したりたり賄賂もらったり選挙違反したりとか」

「おまえの政治家に対するイメージって、それだけなのかよ。いくらなんでも、ちょっと酷いぞ」

志郎は呆れている。

聞き手の持つ政治家に対するステレオタイプの印象から、ここでの「ちょっと酷い」は「かなり酷い」の意味を表している。この場合、文脈において、話し手と聞き手は、「ちょっと」が少ない意味ではなく、高い意味を表していることを認識するものと考えられる。なお、このようなことが可能なのは、日本が、言葉ではなく状況で判断する文化、いわゆる、「高コンテクスト文化」

に属しているからだと考えられる。

副詞としての「少し」の意味を表しているかどうかをみる場合、具体的な数字や状況が示されていると判断しやすい。たとえば、「ちょっと待ってください、1、2分」や「ちょっと水を足します」などの表現である。仮に、「ちょっと待ってください」という言葉だけでは、話し手の主観的なものであり、状況によっては、かなり待たされることもある。つまり、具体的な状況を示さない限り、「ちょっと」の副詞としての少ない意味を、純粹に表すことは難しいと言える。

特筆すべきことは、「ちょっと嬉しいの」、「ちょっとおかしいの」、「ちょっと困っているの」のような、ゼロの形式が付いている基本的な文でさえも、「少し」の意味から、「かなり」の意味までを表せることである。「ちょっと」の程度の意味の幅広さと、それによる曖昧性の特徴がみられる。基本的に、「ちょっと」が表す程度については、話し手と聞き手が、その状況から、言外の意味を察して理解する必要がある。

このことについて、大島（2013）も、「ちょっと」と「少し」の意味の比較にて、「ちょっと」は「数量や程度が小さいということを表すが、その小さい数量や程度が、重要な意味を持つという意味を備えている」（p.17）と述べている。

#### 4. 2. 話し手の行為を些細なものとして伝える

21 例から、同意味・用法が確認できた。話し手の意思を表す「意思のムード」を参考になっている。これは、「私は今度アメリカに留学するの」、「私は専門学校でフランス料理を習いますの」のように、意思を表す動き動詞（意思動詞）が一人称で表されたものである<sup>5)</sup>。このような場合は、言い切られた文でも、断定のムードではなく、意思のムードとして理解される。

⑩俺、ちょっと出かけてくるよ（マンイーター）

⑪午後からちょっと会社に出る（ラクになる）

⑫この後、ちょっと調べ物をするから（家政夫様には逆らえません）

上記の例文では、⑩「ちょっと出かける」、⑪「ちょっと会社に出る」、⑫「ちょっと調べ物をする」のように、動き動詞（意思動詞）の前に付いている。「ちょっと」をとまなうことで、唐突的な申し出によって、相手にこれからの行為が重要なこととして受け取られないようにしている。

以上のように、同意味・用法についてみてきたが、「ちょっと出かけます」、「ちょっと作業をします」のように、「ちょっと」を付けることにより、話し手の行為を些細なものとして伝えている。このことから、【話し手の行為を些細なものとして伝える】用法であると言える。ここでも、「ちょっと」が高い程度を表す場合がある。たとえば、先の⑩の例文の前後の文脈をみていくと、高い程度を表していることがわかる。

「母さん。俺、ちょっと出かけてくるよ」

「こんな雨なのに？それに、もう夕方じゃない」

「どうしても、はずせない用事なんだ」

「夜遅くまで遊ばずに、それなりの時間には帰って来て、たまには勉強しなさいよ。一応、高校生なんでしょ？学費だって、タダじゃないんですからね」

以上のように、「ちょっと出かけるの」、「ちょっと作業をするの」など、ゼロの形式が付いた、動詞述語の言い切られた文でも、程度小から程度大まで表せることがわかる。したがって、これ以降で取り上げる「たい」（願望）、「てください」（依頼）などのムードの表現が付いた意味・用法に関しても、基本的にこれと同じことが言える。

#### 4. 3. 話し手の願望をひかえめに伝える

23 例から、同意味・用法が確認できた。分類については、「願望」のムードの表現を参考にした。これは、「早く新車が買いたい」、「ノートパソコンがほしい」、「子どもに国際結婚してほしい」のように、「たい」、「ほしい」、「てほしい」などの表現が付くものである。下記の例文がそれである。なお、点線は、ムードの表現の部分を示している。

⑬ちょっと取材したいからさ（15 秒）

⑭ちょっとお目にかかりたいのですが（鬼首殺人事件）

⑮ちょっと伺いたいのですが。（過去からの声）

⑯ちょっと訊きたいいんだけどさ（座敷童にできるコト）

⑰ちょっと助けてほしいんですけど（トラブルに気をつけろ！）

⑱ちょっと頭を冷やして欲しいんだ（海を見る人）

上記の例文では、⑬「ちょっと取材したい」、⑭「ちょっとお目にかかりたい」、⑮「ちょっと伺いたい」、⑯「ちょっと訊きたい」のように、「たい」というムードの表現が付いている。また、⑰「ちょっと助けてほしい」、⑱「ちょっと頭を冷やしてほしい」として、「てほしい」が付いている。「ちょっと」をともなうことで、直截的な願望の表明により、相手にあからさまに受け取られないようにしている。ここでは、無遠慮だと思われたくないという態度がうかがえる。

以上のように、同意味・用法についてみてきたが、「ちょっと確認したいです」、「ちょっと手伝ってほしいです」のように、「ちょっと」を付けることにより、話し手の願望をひかえめに伝えている。このことから、【話し手の願望をひかえめに伝える】用法であると言える。



#### 4. 4. 話し手の断定しない事態に真意をほのめかして伝える

18 例から、同意味・用法が確認できた。分類については、「推量」及び「可能性」のムードの表現を参考にした。前者は、「山田さんは入院するらしい」、「あの二人は喧嘩しているみたいだ」、「明日は雨が降るようだ」、「今にも雨が降りそうだ」のように「らしい」、「みたいだ」、「ようだ」、「そうだ」などの表現が付くものである。また、後者は、「明日は雪が降るかもしれません」のような「かもしれない」という表現である。それぞれの例文をみていく。

①ちょっと誤解されているようです（丹波家の殺人）

②ちょっと疲れがたまっているようです（三千世界の鴉を殺し）

③ちょっと焼き餅やきそう（ずっと、夢を見ている。）

上記の例文では、①「ちょっと誤解しているようだ」、②「ちょっと疲れがたまっているようだ」、③「ちょっと焼き餅やきそう」のように、「ようだ」や「そうだ」というムードの表現が付いている。「ちょっと」をともなうことで、推量による事態に対して、相手がそのままの意味で受け取らないようにしている。ここでは、相手に対し、真にそう思っていることを伝えたいという態度がうかがえる。『話し手の推量の事態に真意をほのめかして伝える』用法であると言える。

④ちょっと無理かも知れない。（一千年の陰謀）

⑤五年だとちょっときついかもしれないわねえ。（ピアノ・サンド）

⑥ちょっと周りに迷惑かも（生徒会室も恋のうち）

上記の例文では、④「ちょっと無理かもしれない」、⑤「ちょっときついかもしれない」、⑥「迷惑かもしれない」のように、「かもしれない」というムードの表現が付いている。「ちょっと」をともなうことで、可能性を示した事態に対して、そのままの意味で受け取らないようにしている。先のものと同じく、相手に対し、真にそう思っていることを伝えたいという態度がうかがえる。『話し手の可能性の事態に真意をほのめかして伝える』用法であると言える。

以上のように、同意味・用法をみてきたが、「ちょっと間違っているようです」、「ちょっと難しいかもしれません」のように、「ちょっと」を付けることにより、話し手の断定しない事態に真意をほのめかして伝えている。このことから、【話し手の断定しない事態に真意をほのめかして伝える】用法であると言える。

本来、「～ようだ」や「～かもしれない」などの表現は、事実と断定しないで述べられるものである。ここで、「ちょっと」をともなうことにより、逆説的な意味として、この事態を肯定する話し手の真意が含まれるものと考えられる。したがって、聞き手には、これを察することが求めら

れる。

たとえば、「ちょっと難しいかもしれません」という言葉について考えてみる。ここでは、「難しい」という文の骨格とも言えるコト（命題）を、「～かもしれない」（非断定）というムードの表現で覆うような関係にある。すなわち、まず、ムードの表現により、コトを断定させていない。そして、「ちょっと」をとまなうことで、逆説的に、暗にコト（命題）を肯定しているものと考えられる。

#### 4. 5. 聞き手への依頼や命令をやわらげて伝える

74 例から、同意味・用法が確認できた。分類については、「依頼」及び「命令」のムードの表現を参考にした。前者は、「そこにある塩を取ってください」、「窓を開けてくれませんか」のように、「てください」、「ませんか」などの表現が付くものである。後者は、「そこに立っていないさい」のような「なさい」という表現である。また、「待て」、「勉強しろ」、「来い」といった命令形で表されるものも、この範疇として考えられる。

②⑤お母さん方ちょっと集まってください。（ママと呼んで！由くん）

②⑥ちょっと、ここを見てください…（竜が棲む）

②⑦ちょっと目を通してくれないか（拷問法廷）

上記の例文では、②⑤「ちょっと集まってください」、②⑥「ちょっと見てください」のように、「てください」というムードの表現が付いている。また、②⑦「ちょっと目を通してくれないか」として、「ないか」が付いている。「ちょっと」を介することで、直截的な依頼により、相手に重要なこととして受け取られないようにしている。ここでは、相手に横柄で不躰だと思われたくないという態度がうかがえる。『聞き手への依頼をやわらげて伝える』用法であると言える。

②⑧ちょっと来い、急用なんだ（甘い痛み of 果て）

②⑨君つ、ちょっと落着きなさい（太陽と月のカタチ）

③⑩小屋に入つてちょっと休みなさい（縄文の風）

上記の例文では、②⑧「ちょっと来い」が、「来い」という命令形で表されている。また、②⑨「ちょっとと落着きなさい」、③⑩「ちょっと休みなさい」のように、「なさい」というムードの表現が付いている。「ちょっと」を介することで、直截的な命令により、相手に重大なこととして受け取られないようにしている。ここでは、相手の心に少しの余裕を持たせたい、または、自分の感情を抑えたいという態度がうかがえる。『聞き手への命令をやわらげて伝える』用法であると言える。

以上のように、同意味・用法をみてきたが、「ちょっと作成してください」、「ちょっと落ち着きなさい」のように、「ちょっと」を介することにより、聞き手への依頼や命令をやわらげて伝えている。このことから、総じて、【聞き手への依頼や命令をやわらげて伝える】用法であると言える。

ここでの「ちょっと」は、聞き手が費やす時間や労力の少なさを言っているわけではない。依頼や命令をする際に、直截的な・唐突的なものとして相手が身構えないように、言うなれば、クッション言葉としての役割を果たしている。したがって、派生的な意味として、本来の副詞の意味とは別のものと考えられる。

#### 4. 6. 聞き手への勧誘・提案を気軽なものとして伝える

18 例から、同意味・用法が確認できた。分類については、「勧誘・提案」のムードの表現を参考にした。これは、「今度映画でも一緒に見に行きませんか」、「ご飯でも食べましょう」、「皆でこのプロジェクト挑戦してみないか」のように、「ませんか」、「ましょう」、「ないか」などの表現が付くものである。また、「行こう」、「話そう」、「待とう」といった意思形で表されるものも、この範疇として考えられる。

- ①ちょっと声をかけていこう（たたり）
- ②それより、ちょっと場所を変えよう（黒幕をやっつけろ）
- ③ちょっときいてみましょう。（雲の飼い方）
- ④お母さん、ちょっと奥で休みましょう（約束の少年）
- ⑤ちょっと外に出ないか（剣鬼・岡田以蔵）
- ⑥ちょっと会ってみないか?（させてあげるわ…）

上記の例文では、①「ちょっと声をかけて行こう」、②「ちょっと場所を変えよう」が、「行こう」、「変えよう」といった意思形で表されている。また、それぞれ、③「ちょっと聞いてみましょう」、④「ちょっと休みましょう」には「ましょう」、⑤「ちょっと外に出ないか」、⑥「ちょっと会ってみないか」には「ないか」という表現が付いている。「ちょっと」をとともなうことで、直截的な勧誘や提案により、相手に不可避なこととして受け取られないようにしている。ここでは、相手にその案件を気軽なものとして捉えてほしいという態度がうかがえる。

以上のように、同意味・用法をみてきたが、「ちょっと参加してみましょう」、「ちょっと話し合いませんか」のように、「ちょっと」を付けることにより、聞き手への勧誘・提案を気軽なものとして伝えている。このことから、【聞き手への勧誘・提案を気軽なものとして伝える】用法であると言える。

ここでの「ちょっと」は、相手への勧誘や提案において、少しの程度の行為を表していること

から、条件的に「試みる」という意味を帯びるものと考えられる。実際に、この意味・用法では、「ちょっと参加してみましょう」のように、試しにすることを表す「てみる」をともなっていて使われることがある。

#### 4. 7. 聞き手の注意を引くために呼びかける

22 例から、同意味・用法が確認できた。これは、先のムードの表現とは異なり、「ちょっと」の呼びかけとしての意味である。下記の例文がそれである。

- ③⑦ すいません。あの一、ちょっと（アゲイン）
- ③⑧ ちょっと、あんた聞いてんの？（クッキング・オン！）
- ③⑨ ちょっと弥生さん？（座敷童にできるコト）

上記の例文から、③⑦「あの一、ちょっと」は、相手の名称をともなわずに使われている。また、③⑧「ちょっと、あなた」は二人称代名詞を、③⑨「ちょっと弥生さん」は固有名詞をともなっていて使われている。「ちょっと」を入れることで、唐突的な、不意な呼びかけにならないようにしている。ここでは、聞き手に用事があることをアナウンスしたいという態度がうかがえる。『聞き手に軽く呼びかける』用法であると言える。

- ④⑩ ちょっと！なにするのよ母さん！（トリツカレ男）
- ④⑪ ちょっと！どこ行くんだよ絶斗さん！（無敵万能ゼロ艦隊）
- ④⑫ ちょっと！チケット、ファーストクラスだよ（東京 S 黄尾探偵団）

上記の例文では、④⑩「ちょっと！何するの」、④⑪「ちょっと！どこに行くんだよ」、④⑫「ちょっと！ファーストクラスだよ」のように、「ちょっと」にプロミネンスが置かれている。「ちょっと」を入れることで、相手の態度や行動に対し、突然かつ不意による非難にならないようにしている。ここでは、聞き手にこれから咎めることをアナウンスしたいという態度がうかがえる。『聞き手に咎めとして呼びかける』用法であると言える。

以上のように、同意味・用法をみてきたが、「ちょっと、田中さん」、「ちょっと！間違っていますよ」のように、相手を軽く呼ぶにしろ、咎めるにしろ、「ちょっと」を入れることにより、聞き手の注意を引くために呼びかけている。このことから、総じて、【聞き手の注意を引くために呼びかける】用法であると言える。ここでの「ちょっと」は、聞き手の注意を引くことが目的であると言える。つまり、アナウンス的な役割を果たしている。本来の「ちょっと」の少ないという意味はみられず、これから独立した意味であると考えられる。

## おわりに

本研究では、「現代日本語書き言葉均衡コーパス 中納言版」の例文をもとに、日本語の「ちょっと」の意味・用法を分類した。その結果、7つの意味・用法を確認することができた。この内容をまとめると、以下のとおりである（表1参照）。なお、意味・用法の下位分類がある場合は、それを示すこととする。

表 1. 日本語の「ちょっと」の意味・用法

意味・用法	下位分類・例文
話し手の判断を遠慮しながら伝える	①肯定的な態度を遠慮しながら伝える ・ちょっと嬉しいです。 ②否定的な態度を遠慮しながら伝える ・ちょっとおかしいです。 ③状態を遠慮しながら伝える ・ちょっと困っています。
話し手の行為を些細なものとして伝える	・ちょっと出かけます。 ・ちょっと作業をします。
話し手の願望をひかえめに伝える	・ちょっと確認したいです。 ・ちょっと手伝ってほしいです。
話し手の断定しない事態に真意をほのめかして伝える	①話し手の推量の事態に真意をほのめかして伝える ・ちょっと間違っているようです。 ②話し手の可能性の事態に真意をほのめかして伝える ・ちょっと難しいかもしれません。
聞き手への依頼や命令をやわらげて伝える	①聞き手への依頼をやわらげて伝える ・ちょっと作成してください。 ②聞き手への命令をやわらげて伝える ・ちょっと落ち着きなさい。
聞き手への勧誘・提案を気軽なものとして伝える	・ちょっと参加してみましょう。 ・ちょっと話し合いませんか。
聞き手の注意を引くために呼びかける	①聞き手に軽く呼びかける ・ちょっと、田中さん、 ②聞き手に咎めとして呼びかける ・ちょっと！間違っていますよ。

日本語の「ちょっと」は、副詞としての「少ない」という意味が、意義素である。しかし、実際のコミュニケーションの場面では、「ちょっと」が、対事的ムード、対人的ムードの表現とともに使われることで、多様な意味・用法を表している。むしろ、こちらの方が顕著であると言える。また、いずれの意味・用法でも、「ちょっと」の特徴を生かし、言葉を緩和させたり、直接的な表現を回避させたりして、聞き手への気遣いがうかがえる。「ちょっと」が、いわゆる「配慮表現」として使われているのが特徴的である。

本研究で明らかとなった「ちょっと」の意味・用法を、外国人日本語学習者に指導することで、その習得が期待できるものと思う。ひいては、対人配慮による、円滑なコミュニケーションにもつながるであろう。同分類は、日本語教育文法のムードの表現を基としており、「ちょっと～てください」、「ちょっと～ましょう」など、日本語の文型として導入することが可能である。このような点でも、外国人日本語学習者にとって学習しやすいものとなっている。

また、本論文では、「ちょっと」の7つの意味・用法を確認することができたが、分類する上でサンプルが少なかった例文や、分析ができなかった例文もあり、これ以外のものも存在する可能性がある。今後、より多くの例文を集めることで、これらを明らかにしたいと思う。

#### 注

- 1) 森山卓郎（監修）、旺文社（編）（2020）『旺文社標準国語辞典 第8版』、旺文社、p.969
- 2) 岡本・斎藤（2004）は、日本語の「ちょっと」のコミュニケーション機能を、①「依頼や、希求、指示行為の負担をやわらげる」、②「否定的内容の前置き」、③「断りを受けやすくする」、④「呼びかけ」、⑤「とがめ」、⑥「間つなぎ」の6つに分類している。
- 3) 牧原（2005）は、談話における「ちょっと」の機能について、①「通常程度副詞としての用法」、②「聞き手に対する配慮を表す用法」、③「会話管理に関わる用法」、④「質問に対する明確な解答を避ける」の4つに分類している。
- 4) ムードの表現でも、同意や確認の終助詞である「ね」、「よ」、「よね」などは、分析の対象にしないこととした。これを入れることで、大半の例文が同意や確認の意味でまとめられてしまうため、かえって分析がしづらくなると判断したからである。
- 5) 原沢（2010）は、「時間の流れの中で展開する事態のことを動きと呼びます。＜中略＞『歩く』『たたく』『消える』『壊れる』などの動詞」（p.87）であると説明している。また、動き動詞を、「動作動詞」（歩く、たたく、食べる、流れる）と「変化動詞」（消える、壊れる、折れる、死ぬ）の二つに分けて説明している。

#### 参考文献

- 大島資生（2013）「副詞『ちょっと』と『少し』の意味」『人文学報』、(477)、pp.1-18
- 岡本佐智子・斎藤シゲミ（2004）「日本語副詞『ちょっと』における多義性と機能」『北海道文教大学論集』、(5)、pp.69-71

- 高見澤孟（監修）（2019）『新・はじめての日本語 基本用語辞典 補改』（アスク出版）
- 中道真木男（1991）「副詞の用法分類—基準と実例—」（国立国語研究所『日本語教育指導参考書—副詞の意味と用法—』所収、pp.149-151）
- 彭飛（2004）『日本語の「配慮表現」に関する研究—中国語との比較研究における諸問題—』（和泉書院）、pp.149-157
- 彭飛（2006）『日本人と中国人とのコミュニケーション—「ちょっと」はちょっと… ポンフェイ博士の日本語の不思議—』（和泉書院）
- 原沢伊都夫（2010）『考えて、解いて、学ぶ日本語教育の文法』（スリーエーネットワーク）
- 牧原功（2005）「談話における『ちょっと』の機能」『群馬大学留学生センター論集』、(5)、pp.1-11
- 森山卓郎（監修）、旺文社（編）（2020）『旺文社標準国語辞典 第8版』、旺文社